



真宗大谷派 sinsyu otaniha

組 広 報

第二十四

dai 24so kouhou

- 発行日
2011年1月1日
- 第139号
- 発行責任者
組長 紘澤 成互



2011年

新年 あけましておめでとうございます。



「磯野のこどもたち」

撮影 嘉瀬井 新一氏(磯野・本宗寺)

就任に当たって

長浜教区第24組 組長 紘澤 成互(横山・慶福寺)



この度、図らずも組長として指名されました。驚きと不安の中に引き継ぎをしました。本山では「今、いのちがあなたを生きている。」のスローガンのもと、親鸞聖人750回ご遠忌が勤められます。また、当組でのご遠忌法要が6月に勤めるよう計画されています。この大切な年に指名され、責任の重さを感じさせられています。

宗祖親鸞聖人は1262(弘長2)年に還浄げんじょうされましたが、そのご生涯の中で私達「苦悩くのうの群萌ぐんも」を救う教えを開いてくださいました。釈尊によって開かれた仏教を、私達の為に「凡小修ぼんしょうしゆし易やすき真実の教え、愚鈍ぐどんの往いき易いき道」として開いてくださいました。

歎異抄で「往生のために千人殺せといわんに、すなわち殺すべし。しかれども、1人にてもかかないぬべき業縁なきによりて、害せざるなり。」と、唯円に示しておられます。人間は自分の意志で生きているとは言い切れないことを言い表しています。「煩悩具足ぼんのうぐそくの我ら」と教えていてくださいます。

仏教は自覚の宗教といわれます。「煩惱具足」と働きかけて下さる弥陀の「心光しんこう」に照らされて、自分の煩悩に目覚めることであります。念仏に生きる「私」となるきっかけが戴ける組の活動を目指したいと思ひます。ご支援、ご協力の程よろしくお願ひいたします。

24組 NEWリーダーが決まりました！

さる、11月13日に24組組長選挙が明楽寺において行われました。

選挙結果により新組長、新副組長が選出されました。同時に新組教導も決定されました。

これから3年間、どうぞよろしく願いいたします。

組長 ^{かせざわ} 紘澤 ^{まさのぶ} 成互 御写真・御あいさつ文は表紙にて掲載

副組長 ^{みのべ} 美濃部 ^{としひろ} 俊裕



この度、副組長を務めさせていただくことになりました。今年はいよいよ宗祖親鸞聖人の750回忌御遠忌です。この御遠忌が一人一人にとって教えに触れるご縁になることが肝要です。そのためには各寺でご住職とご門徒とが一緒になって歩むことが大切であることはいうまでもありません。しかし寺によっては、それがかなわない事情も生じてきます。その時には近隣の寺同士が協力し合うことが必要です。24組は教化の予算規模や活動内容が他と比べて大変充実している組です。これは先輩方が早くから組としての教化や研修の重要性に着目され取り組んでこられたお陰であります。私は、同じ宗教、同じ仏教の中でも、ひときわ輝き、そして間違いのない親鸞聖人の教えの元に生まれたことを本当にありがたいと思います。ご先祖の願いや先人が積み上げ伝えてくださったものを大切にして、微力ながら精一杯務めさせていただきたいと存じます。組内の皆さん、どうぞよろしく願いいたします。

組教導 ^{かわなべ} 川那部 ^{えりゅう} 恵龍(東阿閉・浄教寺)



この度、24組の教導をさせていただくことになりました。煩惱具足の身ですので、皆様を導くことはとてもできませんが、少しでも仏法に近づいていただけのお手伝いをさせていただきたいと思います。

大谷派宗憲の前文には「すべて宗門に属する者は、常に自信教人信(じしんきょうにんしん)の誠を尽くす」と書かれています。自信教人信とは「自らが信じ、人にも教えて信を伝えること。誘い合い、励まし合いながら人びとと共に教えを聞いてゆくこと」です。

「真宗の修行は一生の聞法(もんぼう)である」とも言われていますが、私たちの宗門では、「聞法する」共に教えを聞いてゆくことが大事にされてきました。私も24組の皆様と共に、誘い合い、励まし合いながら教えを聞いてゆきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

来年は、しんらんさまが亡くなって750年のふしめの年なので、特別に東本願寺へ行って、花まつりをします。750年前の人たちは、どんな生活をしていただろうね？毎年、大通寺(ごぼさん)でしている花まつりは、長い歴史があって、たくさんの方が参加してきました。もしかしたら、みんなのおじいちゃんやおばあちゃんも、子どものときに参加したかもしれないね。花まつりはおしゃかさまの誕生を祝い、教えに出会う、大切なお寺の行事です。おしゃかさまの誕生から教えてもらっていることは、あなたのいのちのたいせつさです。来年はしんらんさまのごえんきをきっかけに、東本願寺で、大人も子どももいっしょに、いのちの尊さ、いのちのつながりを感じ合いたいと思います。



- 4月4日(月)春休み期間中 教区から東本願寺までバスが出ます。くわしい日程、申込方法は来入寺(82-3851)までお問い合わせください。

毎年、
「ぼさん花まつり」
に参加してくれて
いるみんなへ★

長浜教区
花まつりは
4月4日に
東本願寺で
開催します。

中村富子女史の「母、中村久子と歎異抄」 と題する講演を聴いて

明楽寺前住職 藤谷 弘懿ひろよし



10月30日だというのに、まるで初冬のような天候の中、第24組社会部会の主催による講演会は、他県から来られた人も含め満堂の参会者を得て始まった。講師は中村久子さんの二女富子さん。小さな身体、しかも86歳という高齢でありながら凛とした声で幼くして壊疽のために両手両足を失い、見世物小屋を転々とされた母の生涯と、その母に育てられた自分を語られた。参会された方々は お話し全体を、または部分部分で感動されたものと思う。



「私には特に久子さんが歎異抄を通じて知った親鸞さんを語られる件が強く印象に残った。

「親鸞様は偉い方だと思っていました。しかしそうではなかった人間でした。」自分と同じように苦悩を背負って生きられた親鸞さんに深い共感を覚えられたのであろう。「それ以来しばしば書見台の前に正座して歎異抄を読む母の姿を見ました。時には涙を流しながら・・・。」

「私には私の歎異抄があります。富子には富子の歎異抄がある。そう言って、決してどう読みなさい、こう読めとは言いませんでした。」

72才の春、死を予感した久子さんは娘に、自分は先生と献体の約束がしてあるのでそれを果たして欲しい。それとお棺の中へ歎異抄を入れるように頼まれたという。命終わった後も、なお歎異抄を読もうとされたのではなかったか。大いなるものに出会われた人の喜びから出てきた思いだったのであろう。

親鸞さんは亡くなる2年前、つまり88歳の時のお手紙で、
「法然上人から、浄土宗の人は愚者ぐしやとなってこそ往生するのだと確かに
お聞かせいただいた、今でもそれを思っている。」と語って居られる。
私には、救われたからこそ一つの道を永遠に歩み続けられるお二人の姿
が重なって見えてくる。

最後に、私が心の中に大切にしまっている親鸞聖人の御和讃ごわさんを記して
筆を置くことにしたい。



「よしあしの、文字ももをもらぬひとはみな、まことのころなりけるを、
善悪ぜんあくの字あざしりがおは、おそろごとのかたちなり」



こころスケッチ

吉田 茉莉子



美しいのだ

それが

それが

毎日の規則的な生活が

一定のリズムで打つ心臓が

美しいのだ

秩序を覚えた姿が

散在してあったものが

美しいわけではなく

積み重なったものが

集積の美

東本願寺で
人と
教えに
あ
出 遇 う

報恩講で…。

前24組婦人会長で長浜教区婦人会長を務められました野洲悦子さん(充滿寺)が本山報恩講中の11月26日に御影堂にて感話をされました。組内では、このようなことはなかなか無いのでとても嬉しく、誇らしい気持ちで聴かせて頂きました。落ち着いたお声で、2年間聴いてこられた様々な先生のお話や出会いをご自身の人生の中に教えとして感じ取られた、実感されたお話でした。



私の前にはお話をされている野洲さんがいらっしゃる、野洲さんの後ろには親鸞聖人がお座りになっておられ、親鸞聖人の後ろには法然上人が…ずっと辿っていくと阿弥陀仏がとてつもなく長い月日を経て今ここに座っている私に語りかけて下さっているのだ、という不思議な感覚を覚えました。詳しいお話は、またご本人にお訪ねになられてはいかがでしょうか？(広報委員・藤谷)



本廟奉仕で…。

10月23日から25日まで3日間、組門徒会の14名の方々と一緒に真宗本廟奉仕に参加させて頂き、初めての経験で帰敬式剃刀の儀、また阿弥陀堂参拝と御影堂修復状況の見学など初めての事で大変有難く見学と勉強をさせて頂きました。また講義、座談では木戸教導、多賀補導両氏のお話を聞く上で何か自分自身の考え方が変わった様な気がしますし、一歩前に進んだ気持ちです。今後は南無阿弥陀仏をと立て、もう一歩も二歩も前に進みたいと考えております。教導、補導さんには色々とお世話になり大変有難うございました。(副門徒会長 山田 国昭 本宗寺)



宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌お持ち受け奉仕団 2010年10月23日～25日 於 真宗本廟(東本願寺)



10月23～24日の2日間、組婦人会からは18名が参加、7名が帰敬式を受けさせていただきました。

修復を終えたばかりの御影堂は、金箔と漆喰の白・墨差しの黒とが美しく調和し、あまりにも立派で一同感動いたしました。そして、これから修復に入る阿弥陀堂の大掛りな囲いの上段から大屋根を見下ろし、想像を絶する景色にこれまた驚きの連続でした。オリエンテーションは、御影堂門の階上のお釈迦様の御像の前で行ってくださり、各々の思いを発表して貴重な体験をいただきました。また夕事勧業では私たちの班が指名を受け、大勢の奉仕者の前で林美栄子さんが導師を勤めてく



ださいました。帰敬式では、真宗門徒としての自覚を持ち仏の本願を信じて念仏申す仏弟子となるのであると教えていただき、先代・先々代が、念仏の日々を過ごしていたことの意味が理解できるような気がしました。

今回2班に分かれて、それぞれに女性の補導の先生がついてくださいましたが、この世界でも女性が活躍して下さることがとてもうれしく、緊張せず和やかに2日間を過ごさせていただくことができましたことを深く感謝申し上げます。

(婦人会 岩根 妙子 明楽寺)

【敬 弔】

*各寺の行事予定は前号で終了いたしました。御自坊までお尋ねください。

ご生前のご功勞を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

證光寺(東物部)

住職 藤川 隆丸様

(2010年12月12日命終)

各委員会の行事予定

1月22日(土) 坊守会 情報交換・役員改選
場所未定

2月14日(月) 坊守会 午前9時30分～
自主研修 来入寺